



JASWHS 公益社団法人 日本医療社会福祉協会
Japanese Association of Social Workers in Health Services

平成26年9月1日 第4巻(第3号)

発行：東京都新宿区住吉町8-20 四谷チンゴビル2F

災害支援チーム TEL (03)3351-5038

FAX (03)5366-1058

Mail: dsstsw@jaswhs.or.jp

もくじ

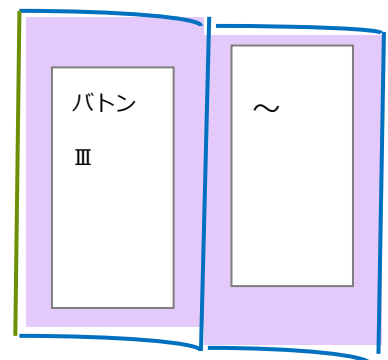
1. 現地活動報告 ①協力員 ②現地職員
2. 大阪府 MSW 協会「災害支援振り返り」の会に参加して
3. 災害支援チームからのお知らせ
4. 災害支援ニュース発行のお知らせ
5. あとがき

「東日本大震災医療ソーシャルワーカーの支援のバトンⅢ」
を発行することとなりました。

2015年2月の発行に向けて

準備中です。

しばらくお待ちください！！



「東日本大震災医療ソーシャルワーカーの支援のバトンⅠ」

「東日本大震災医療ソーシャルワーカーの支援のバトンⅡ」

については、「3. 災害支援チームからのお知らせ」をご参照ください。

1. 現地活動報告

現地職員の新体制となり、協力員の受け入れも始まりました。今回は、以前と同じように「協力員の活動報告」を紹介します。

.....

協力員 福島 美幸氏

独立行政法人国立病院機構

四国がんセンター

活動期間：2014/06/4～2014/06/06

初日、石巻駅からサポートセンターまで乗ったタクシーの運転手さんから「地震で壊れた家の修復が、先週やっと大工さんが入って終わったところだよ～」と、まだ続く4年目の現実を知りました。3日間のうちに、仮設住宅への訪問、あがらいんの見学、ケースレビュー、「引きこもりの子を持つ親の会」のカード案作り、被災した雄勝町にある家の確認訪問に加え、肌で感じて欲しいと現地スタッフが大川小学校跡や市立病院跡周辺等を案内してくださった。文字でも写真でもない、そこに立って風を五感で感じました。小学校跡の周辺には盛り土の工事を横目に白とピンクのクローバーがこどもたちのようにたくさん咲いていて、自然の力強さである負と正の両者

※ **あがらいん**：「あがらいん」は、ケア付き仮設住宅。石巻市開成地区の仮設住宅街のほぼ中心地にある認知症や障がい者向けの集合住宅型仮設住宅です。

が一気に私の身体をかき廻りました。そこここで偶然出逢う被災者の皆さんから語られる地震の脅威と、その後の復興に向けた思いや生活。「遠くから来てくれてありがとう。あなたたちに話して、気持ちが落ち着く。」と、自ら言ってお下さる。そういう時期なんだと。これからを見据えて社協や地域包括支援センター、自治会、ボランティア団体等との地域ネットワーク作りに奔走している現地支援員のみなさんに心からエールを送るとともに、地元愛媛でも被災の現実と仲間の活動を伝え、そして自分たちの事として被災時に備えた個及び組織人としての取り組みを考えていきたいと思えます。「帰りたくない」と感じた気持ちを忘れずに。忙しい中、急な申込みにも関わらず快く受け入れ、多くの事を教えて下さった現地支援員の皆さんに心より感謝致します。

メッセージ

現地の今を肌で感じ、生の声を聞きそして自分を通して考えたいと思いました。行かせて頂いて、やはり行かないと絶対に「事の本質」は少しもわからないことを確信しました。協力員として、ぜひMSWとしての自分を投資してみてください。自分の地元でもできることがわかんと思っています。

協力員 菊池 知憲氏

総合南東北病院

活動期間：2014/7/16

午前中は男の遊ぼう会の活動に参加。男性 5~6 名が月 1 回程度集まり調理、釣り等の余暇活動を通じて交流するサロンの役割を果たしていた。今回は皆で協力しながらサンドイッチ等を作った。参加者は年齢、家族状況は異なるが、話の端々に震災や自分の状況に関する思いが表出され、人々の生活、心理に深く残る震災の影響の一部を感じとることができた。また参加者のなかで、男の遊ぼう会が一つの居心地の良い場所になっていると感じた。午後は介護・虐待・養育・失業等の多重な問題、住宅の問題等を抱えた家庭 3 件の自宅訪問に同行し



たが、非常に複雑な問題を抱えており、ソーシャルワーカーには高いスキルが求められることが理解できた。夜は石巻市内のソーシャルワーカーの事例検討会に参加させていただいた。今回活動に参加し、被災地及び生活する人々の現在の状況の一部を感じることができた。本活動は震災ソーシャルワークにおける教育的意義があることを理解した。

メッセージ

働いている 3 人の女性達は非常に高い意欲をもって職務に当たられています。また実際に対応されている事例は病院の中だけではなかなか体験できないものであるため、足を運ぶことで私は大きな刺激を受けました。一度は参加してみたいかがでしょうか。石巻もとても良い所です。

協力員 長谷川 敦氏

宮城県医療社会事業協会

活動期間：2014/07/16

〔男の遊ぼう会〕10時から11時まで参加
宮城県協会有志2名で参加。全国のみなさんこんにちは、地元宮城県協会に所属していて、全国理事をしています、谷川でございます。正式に活動におじゃまするのは初めてでしたが、少しずつ地元に近い地域からも支援の輪を広げられれば、との思いで参加させてもらいました。この場をお借りして日々、支援活動にご協力いただいている会員のみなさまに心より深くお礼申し上げます。

さて、活動に参加しての感想は、事前の情報よりもグループの輪ができており、参加メンバーそれぞれが目的をもって会に積極的に参加している印象を受けました。初回の印象でございますので、今後、継続して何う間に、いろいろと支援が必要になってくるのかもしれない。現地担当者との今後の密な打ち合わせをしたいと思っております。

また、毎月活動内容が違ふとのことで、今後、活動の内容・参加者の心情等、我々も少しずつお仲間に入れていただき、支援の輪が広が



っていくことを目標といたしております。同じ被災者としてともに歩む姿勢を大事にしていきたいと思っております。

短時間ではありましたが、グループのみなさまに心よく迎えていただき、当日は、サンドイッチ作りを参加者5名とともに行いました。参加者から、サンドの仕方や、包丁を切れるように火で炙る等いろいろなアイデアが出され、終始なごやかなムードで完成前まで参加させていただきました。残念ながら、午後の仕事の関係上途中退席をしましたが、試食についてもなごやかなムードで行なわれたと思っております。

次回も同じ時刻での参加になりますが、現地のみなさま、よろしくお願い申し上げます。

2. 大阪府 MSW 協会「災害支援振り返り」の会に参加して

大阪府 MSW 協会 『東日本大震災 災害支援活動 振り返り』

大阪府 MSW 協会からは、当協会の支援活動に協力員を派遣して下さっています。

取り組みの振り返りの会(2014年7月27日)には、当協会から山田美代子氏、畑中良子氏も参加しました。

『大阪医療ソーシャルワーカー協会 との振り返りの会に参加して』

済生会中津病院
富士川 浩子氏

平成 26 年 7 月 27 日、大阪医療ソーシャルワーカー協会（以下、大阪協会と略します）主催で現地支援活動に参加した協会員のフォローや活動体験の共有、今後の支援活動にどのようにコミットするかを検討する機会として『東日本大震災支援活動 振り返り会』が開催されたので参加しました。現地支援活動の新旧責任者である山田美代子氏、畑中良子氏お二人の出席のもとに大阪協会の会長、理事 2 名、現地協力員として活動した大阪協会会員や支援活動に興味があり参加をした協会員など 11 名が出席をして、2 時間にわたる意見交換が行われました。山田美代子氏、畑中良子氏からは震災直後から現在に至る支援活動の変遷や現地スタッフの支援活動の様子、現地協力員との協働への思い、それぞれの都道府県協会の支援活動へのスタンスなど多くの観点から復興支援活動をご説明頂きました。参加者全員には、支援活動への思いや考えを表出する場面を頂きました。

意見交換からは、支援活動を時系列で整理する機会が必要ではないか、協力員として現地に出向くことで現地スタッフの皆さんに負担をかけている部分があるのではないか、2～3日の活動期間の中で協力員として何

ができたのかという思いを抱えている、参加したかったがライフサイクルの状況から参加に至っていないがこの災害支援活動には関心がある…などの意見が出されました。

大阪協会には阪神大震災での災害支援活動経験者や自身が被災され、被災者である立場で阪神大震災の復興支援に携わり、震災・復興支援ということへの特別の思いをもたれているMSWの心情もお聴きできました。ボランティア元年と言われた阪神大震災では、全国からあらゆる団体の支援活動が阪神間で展開されて被災地の大きな力となったようですが、支援団体が展開されてきた支援が収束を向かえる時期には、支援団体が行っていた支援を“誰が、どのように引き継げるのか、果たして引き継ぐ必要があるのか…”などさまざまな葛藤が被災地の当事者であるソーシャルワーカーの皆さんに生じていたことをお聴きしました。

私は、震災 1 年 4 ヶ月後に 3 日間の活動の機会を頂きましたが、この短い期間の活動の中で、何名かの被災者宅を訪問、電話をさせていただき、経過をお聴きし、支援の継続、終結の判断をさせて頂きましたが、終結の判断の是非やその後の経過フォローを出来ないままの対応に戸惑いを感じつつ、その戸惑いを消化しきれないままにこの『振り返り会』に参加しました。

これらの意見交換の中で私の心に一番残ったことは、阪神大震災での経験談をお聴きした中で“誰のための支援活動なのか”とい

う思いでした。“被災者支援”“被災者でもある支援者の支援”“被災地以外から支援活動に従事している支援者への支援”という支援対象者の奥深さとそれぞれの対象者に共通する配慮とサポート、異なる配慮とサポートがあるのではないかと改めて考えるに至りました。

この『振り返り会』を通して、私自身の戸惑いや支援活動への意味づけを明確に整理できたわけではありませんが、“誰のための支援”“どのような立ち位置で支援活動に参加するのか”と多くの気づきを頂いたこと、今まで従事された現地スタッフ、協力員それぞれの支援活動と私自身の支援活動のつながりを感じることができたことも事実で、日本協会災害対策本部、現地スタッフ、現地協力員のそれぞれの立場での災害復興支援活

『大阪医療ソーシャルワーカー協会との振り返りの会に参加して』

日本医療社会福祉協会 災害支援チーム
石巻現地責任者 畑中 良子氏

7月27日、当協会が石巻に現地事務所を置いてから活動に参加した方や現地活動に興味がある方で、大阪医療ソーシャルワーカー協会の会員12名と振り返りの会があった。現地の常駐スタッフとして活動をしていると、協力員さんがどのような思いをしたか？何を感じたか？を知る機会は、活動後に皆さんが書いてくれる活動報告書でしか感じる事が出来ていなかった。今回は実際に現地活動に参加して感じた事や地元に戻ってからの自分が担う役割について考えている事な

動への考えや思いを少しではありますが確認できたことが私にとっては大きな意味があったと思っております。

現地責任者のお二人から「実際に現地に向くことだけが支援ではなく、一人一人が関心を持ち続け、現地活動以外の現地支援者へのサポートなど“できる支援は何か”を考えることも支援の1つ」と言われ、協会員としてのサポートの多様性を認識し、1回しか参加できていない私も救われたように感じました。現地責任者のお二人から被災地のニーズに寄り添いながら展開されている現地支援活動をお聴きして、今後どのようにかわれるか、支援の意味を見つめ直したいと改めて思いました。

どを聞くことが出来た。

現地活動はケースを現地スタッフと協力員とが共同で行っている。協力員は現地活動が3日間という短期間の中でバトン方式をとり、支援を行っている。そのため「ケースの経過が追えない。」と悩んだり、「ケースを終結する事についてプレッシャーを感じた。」という意見が出た。現地スタッフとして活動をしているとケースの支援経過を見ているため、そこにストレスを感じる事に気付かなかった。普段のケースワークでも当然の事であるが、ケースの引き継ぎの方法をしっかりと、そして、丁寧に行っていく事が重要であるとの気づきになった。

また、自分が所属している組織にMSWが被災地へ支援に行く事への理解を得難い状況があるという意見もあった。現地でソーシャルワークが今、何故必要なのか？について

言語化、視覚化し、伝えていく事の難しさも感じられたとの事だった。

今回の振り返りの会を行い、活動を終わってからの思いを共有できる場が必要なんだと感じた。それぞれが色々な思いを抱えたまま日々の業務へ戻っていき、不全感が残った方も多かったように感じた。他の県協会では協力員が地元へ帰ってきてから、先輩ワーカーが思いを聞くような体制を組んでいるところもあると聞いたので、その方法などを参考にし、今後は大阪協会でもシステムを作ってもらいたい。

現地スタッフとして、今まで参加してくれ

大阪府医療ソーシャルワーカー協会との「災害支援活動の協力員の振り返り」の試行について

日本医療社会福祉協会石巻事務所

第一期責任者 山田美代子氏

(西片医療福祉研究会)

広島をはじめとした土砂災害で犠牲になられた皆様のご冥福をお祈り申し上げます。また、二次災害の不安も抱えながら避難生活を余儀なくされておられる皆様にお見舞い申し上げます。

私は、協会の東日本大震災の災害支援要員として2011年4月1日から9月30日まで、石巻市遊楽館で現地責任者をさせていただきました。その期間多くの協力員の方々や理事さん達に支えられながら福祉避難所の避難者の方々への直接的支援活動を行うことができました。この場を借りて、改めまして理事会、災害本部事務局、協力員の皆様

た協力員の方々の思いを聴くことができた事で、今後の活動のヒントにもなった。そして、何より情報共有、気持ち、想いの共有が出来た事が今後の活動への活力となった。

最後に、今回、振り返りの会の企画をしてくださった大阪医療ソーシャルワーカー協会の方々にお礼申し上げます。本当にありがとうございました。

是非、他県の協会でも同様の振り返りの会を企画していただきたいと思います。

に御礼を申し上げたいと思います。

災害支援活動ならびに復興支援活動は、災害の種類、災害の程度、その国、地域社会の状況に応じて行われます。当然のことですが、被災者や被災地域のために行われるように支援者は努力します。現在、協会活動としての現地支援は、被災地域の人々の尊厳保持がなされるように、被災地域の人々が取り組む生活課題に対して伴走型支援を行っています。外部からの専門職による石巻市への災害支援は、バトンタッチ方式で行われ、現地責任者も佐藤さん、武山さん、久保木さん、畑中さんへと引き継がれ、協会の災害支援活動は、復興期に移行した今も、継続中です。

さて、災害支援活動の構成要素として、被災者や被災地域機関への支援と同じくらい重要なものは、支援者支援だと言われています。責任者を担った立場として、私は、協会の災害支援活動に参加した協力員の方々の振り返り作業を行っておかなければならないと思っておりました。大阪府医療ソーシャルワーカー協会は、日本協会の災害支援活

動に対して、定期的に会員さんを石巻現地に派遣して下さっていますが、府協会の藤田譲会長と、昨年日本協会の60周年記念式典の時に、私がこのような考えを持っていることについて、じっくりとお話しする機会を得ました。その後藤田会長から大阪協会として、振り返りの会を開催したいので協力してほしい旨のご依頼を受けました。

去る平成26年7月27日、大阪協会主催の研修会として、現地活動に携わった会員の方や今後活動を考えている会員の方との振り返りの会が実現しました。

現在の現地責任者畑中さんとともに、大阪協会の事務所にて、大阪協会の会員さんの災害支援活動を通じた個々人の体験や思い、支援への考え方、職場内調整、協会内調整、阪神淡路大震災の体験からの東日本大震災へ

の思いなどを聞かせていただきました。また、現地での支援活動の過去・現在・未来についても触れさせていただきました。

多くの会員の方々が行った災害支援活動の振り返りがなされていくことは、個人、集団、組織として意義深いことであり、職能団体として災害支援活動の分析にも必要な作業であると思います。このような取り組みは災害支援活動の支援者支援の一環としても重要な要素だと言えます。できれば、日本協会と地方協会で協力し、災害支援活動の振り返りセッションを実施していくことを期待します。

振り返りの会の必要性と意義についての詳細は、後日、災害ニュース等で述べさせていただきます。機会を頂ければ有り難いと思います。



3. 災害支援チームからのお知らせ

【1. 協力員募集】

現 地

現在、1日にあたり上限2から3名で募集しております。

現地までの旅費・交通費は自己負担をお願い致します。

活動日程につきましては下記のようにお願い致します。

期 間： 平日3日以上、

受入日： 期間を満たす曜日 (土、日、祝日は活動致しません。)

但し、**上記以外であれば支援活動が可能な場合は**現地担当までご相談ください。

※ 出発2日前までには(到着時刻等を含めて)は必ず現地担当にご連絡ください。

今後、活動に参加される方でその年度初回参加時には、簡単な資料を郵送致します。

ホームページに活動カレンダーを掲載しておりますのでご覧下さい。

事務所

引き続き募集しております。

平日のみの活動ですが1～2ヶ月に1回でも構いません。

ご協力お願い致します。

【2. 災害支援チーム会議開催のお知らせ】

次回予定 : 10月X日

【3. 書籍販売】

『東日本大震災 医療ソーシャルワーカーの支援のバトンⅠ』と
『東日本大震災 医療ソーシャルワーカーの支援のバトンⅡ』の

販売を行っています！

発災から2011年9月30日までの石巻・仙台・大槌町・事務所・災害対策本部の活動の記録を『バトンⅠ』に、2011年10月から2012年12月までの災害対策本部、石巻市での仮設住宅支援・在宅被災世帯支援・市民活動支援、現地SWとの協働の記録を『バトンⅡ』にまとめました。

尚、売り上げの全額を皆様からの寄付として、本活動の資金にあてさせていただきます。



※ご注文は注文用紙で承ります。

(注文用紙はホームページからダウンロードできます)

バトンⅠ:URL: http://www.jaswhs.or.jp/data/publishing_detail.php?@DB_ID@=45

バトンⅡ:URL: http://www.jaswhs.or.jp/data/publishing_detail.php?@DB_ID@=47

【4.facebook】



facebookでも情報をお伝えしています。現地や災害対策本部の日々の様子をお伝えしています。応援よろしくお願いたします。

URL

<http://ja-jp.facebook.com/pages/公社日本医療社会福祉協会-災害対策本部/156327867812970>

【5.YouTube】

現地での災害支援活動の様子を前事務所担当の一原さんが VTR にまとめて下さいました。YouTube にアップしましたので、是非ご覧ください。「医療ソーシャルワーカー災害支援」で検索すると見つかります。

URL

<http://www.youtube.com/watch?v=vn34I9h5rJ4&feature=youtu.be>



4. 災害支援ニュース 次回発行のお知らせ

発行予定は9月20日です。

5. あとがき

災害支援チーム事務局から

担当 西田

雄勝にローズファクトリーガーデンというバラやハーブを楽しめる広い庭ができつつあります。イギリスでは何十年もかかって庭を作っていくそうですから、このばら苑も

主催者の徳水利枝さんを中心に息の長い活動が繰り広げられることでしょう。このガーデンの草取り等の庭造りのお手伝いには多くのボランティアの方が協力しておられますが、石巻地域若者サポートステーションという若者の自立と就職を支援する機関から

もメンバーさんがボランティアとして派遣されています。

昨年5月に石巻市保健相談センターで細々と始った引きこもりの子どもを持つ家族の会に、継続して参加しておられるAさんの息子さんがサポートステーションのスタッフと一緒に草取り作業に精を出しています。彼が関わっているローズガーデンを見たくて、7月の末、現地スタッフに案内してもらいました。薔薇の時期は過ぎていましたが数種類のハーブが風に吹かれていました。主催者の徳水さんは福岡に講演にいらしていませんでしたが、留守を預かっている数名の

女性がにこやかに対応してくれました。草花を使ってはがきや小物を作るワークショップにも参加できるそうです。



このローズガーデンには徳水さんのご実家がありお母様がお住まいで、お母様と叔母様お従兄弟さんたちご親族10名の霊を弔うためにその年の8月瓦礫に埋もれた実家跡地に花を植え始めたそうです。

石巻にいらしたら是非雄勝まで足を延ばしてください。



『 2014年度は「雄勝花物語第3章・観光バラ園プロジェクト」を実施しています 』とのことです。

是非、ホームページをご覧ください。

「雄勝ローズファクトリーガーデン」で検索できます。



東日本大震災 MSW 災害支援ニュース

平成 26 年 9 月 1 日 第 4 卷 3 号

作成 日本医療社会福祉協会

災害支援チーム事務局